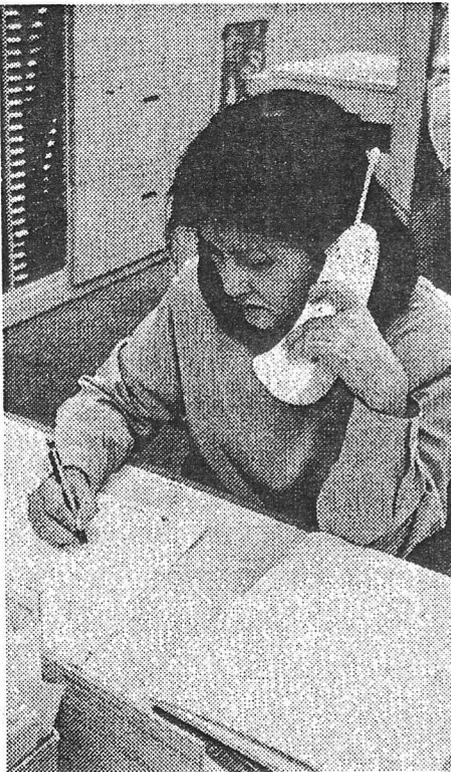


## 言葉の壁：反応鈍く

日本で暮らす外国人に医療情報を提供する民間団体「AMDA国際医療情報センター」のタイ人向けエイズ対策事業の利用者が極めて少なく、草の根の情報伝達にはもっと工夫が必要と関係者が頭をひねっている。十月から始めたタイ語の電話相談はわずか一件で、病院へのタイ人看護婦派遣もまた二病院三患者にとどまる。言葉の壁から情報が届かないのが原因とみられる。タイ語の相談窓口はほとんどないが実情で、「基礎知識に欠ける人も目立つ。感染を防ぐ第一歩として役立てたい」と同センターは大使館やタイ料理店へ協力をお願いに走り回っている。

### AMDA実施 利用1件



## 「感染防ぐ一歩」広報に汗

電話相談は十二月まで毎週月曜日に実施、日本の病院勤務の経験もあるタイ人看護婦、アーボン・ティスヤーンさんが対応す。要請は神奈川県男女、兵

受け入れた病院は「日本語を少し話せるようなので日本語で症状を説明したところ、うなずいていたが、実際にはあまり理解していなかったことがわかった」とほっとした様子。

いずれも無料だが、日本語や英語のメディアが取り組みを伝えても二カ国語とも理解できないタイ人が多く、反応はまだまだ鈍い。

同センターの小林米幸所長が開業する病院の調査では、九五年六月までの二年半でHIV検査を受けたタイ人百十四人中、三人が陽性者だった。小林所長は「状態はつかみきれないが、言葉の壁から予防の知識や専門家の助言が受けられない状況は深刻」と懸念する。

「タイ人を感染から守ることは国内のエイズ対策にもなる」と呼び掛ける。

今回のプロジェクトのために来日したアーボン・ティスヤーンさんは「感染者や患者が希望と自信を持ってるように手助けしたい」と話している。

九五年十二月末で外国人登録のタイ人は約二万六千人。不法滞在を含めるとさらに膨らむ。同センターには在日外国人から一カ月に約二百五十件の相談が寄せられるが、それに比べても反響のなきが際立つ。

このため、今回の活動を広く伝えようと今月十五日

電話相談はタイ人看護婦が対応するが……

問い合わせは03・52905・0000へ。